

日本ロレンス協会 第49回大会報告——2018年6月30日, 7月1日

東北学院大学土壠キャンパスのホーイ記念館で2日にわたって開催され、研究発表、シンポジウム、ワークショップと充実の内容で、刺激的な大会となりました。



初日は研究発表で幕を開けました。中篇「大尉の人形」をめぐる発表です。



初日の後半はシンポジウム「ロレンスに触れる——象徴、劇場、写真」です。4人の講師による比較文学的視点も交えた刺激的な議論を聴くことができました。



大会2日目はワークショップ「オックスフォード英文学と冷戦期の／ポスト帝国日本の「英文学」——F・R・リーヴィスの退場を規定した歴史的可能性の条件とは」でした。ロレンス批評を歴史化し、ロレンスを論じることの思想史的意義にまで及ぶ射程の長いワークショップになりました。



開催校委員の井出達郎先生をはじめとする東北学院大学のスタッフの皆様のおかげで、第49回大会は滞りなく2日間の日程を終えることができました。
皆様、本当にありがとうございました。



来年度の第50回記念大会は6月8日、9日に開催されます。
会場の慶應義塾大学（日吉キャンパス）でお会いしましょう。